



## ホワイトバード通信 2015年11月号

### 1. 最近の活動

#### 1.1 報道機関との調整

報道機関としばらく打合せをもっていた事例が、一般への報道の形で公開されました。全国紙三大紙のうちの一紙の紙面上に大きく扱われました。

インパクトがある内容だったため、他の報道機関による後追い報道も行われました。市井の反応をみると、BBSやtwitter等でも話題に取り上げられました。

#### 1.2 国会議員向け情報提供

とある問題について国会で繰り返し取り上げて質問をしている国会議員に連絡をとりました。くだんの問題について、情報提供を申し出たのです。相手方からの返答によっては、今後情報提供を行うかもしれません。

#### 1.3 中国ユーザーの動向調査

中国のコンサルタントと、中国消費者向けのショッピングサイト構築について議論をしました。

最近の中国人観光客の爆買い報道や、インバウンドビジネスの勃興に伴い、大手も続々と中国消費者向けの事業に参入したり、参入の準備を進めています。

中国での、あるいは中国相手のビジネスでは、決済や、輸出入の手続き、関税、配送などに、日本国内向けとは全く異なる障壁や不透明性が存在します。しかし、大手やトップの会社がある程度リスクをとった上で参入をしてくれて、中小企業向けに取り次ぐ形でサービスを開放してくれれば、日本の多くの個人あるいは中小企業が、中国と活発に取引できる方向が見えてくるかもしれません。

### 1.3 Free Wifi spot の動向調査

セキュリティにまつわる攻撃側の心情として、身元を隠したいと思っているであろうことは間違いありません。身元が明らかになれば、攻撃側にとって

1. 攻撃者の性質や攻撃の性質が明らかになることで防御がやられやすくなる。
2. 反撃を受ける。
3. 違法性があれば、警察に通報されたり告発を受けたりする。
4. 悪い社会的イメージと結びついてしまう。

などの不利益がありえます。匿名性は、攻撃側にとっては必須のポイントでありましょう。

匿名性を実現するための一要素として、Free Wifi の応用が挙げられます。つまり、利用者の登録が不要でネットワークにつながられれば、身元がばれにくいでしょう。もちろん Free Wifi を利用すれば直ちに匿名性が得られるというものではありませんが。現実の問題として、Free Wifi はひとつの手段として用いられてしまっている可能性があります。

そこで、当方でも Free Wifi の特性について調べを始めています。一般の人々によく使われているのはどのような場所なのか、利用登録の方法はどうか、などを研究してみています。

### 1.4 VPN

ある施設に設置されている公共 Wifi SPOT を利用する場合、その無線機器は当該の施設あるいは組織の持ち物です。当然のことながら、暗号化しなければ、通信は当該の施設や組織にもれる可能性があります。通信内容もさることながら、どこのサイトに接続したかとか、自分は誰であるかなどのメタな情報が漏れるのも困ります。

こうした危険を避ける仕組みのひとつが、VPN です。Wifi SPOT の利用に併せて、世の中での VPN の活用の実態研究も進めています。

VPN を利用すると高度な匿名化が実現できそうなのですが、単に VPN をインストールするだけではだめで、勘所のようなものがありますし、他の技術との組み合わせの必要もあります。提供されている VPN サービスにも、使いやすさや安定性など、予想どおり細かい差異があることがわかってきました。

攻撃側が匿名化に素朴に VPN 技術だけに頼っている場合、素性をつかめるかもしれない可能性も見えてきます。

## 2. スポーツと身体に関わる業務内容

ホワイトボードでは、とりわけ舞踏やダンスの方向で身体と情報との関わりを深めていこうとしています。

当地仙台は、学都仙台という別名もあるぐらいで大学が多数集まり、学生が5万人という規模で暮らしています。こうした若者の層の間では、ヒップホップやストリートダンス系の活動が盛んです。祝祭と関わりのあるところでは、よさこいあるいははずめ踊りの活動も目立ちます。社交ダンスを趣味にする人も多く、かなりの数の教室が存在しています。その他、地方都市で100万人規模の人口があるので、どんな種類のダンスや舞踏をもってきたても、多寡は別として、ある一定規模の活動があるようです。

しかし、この規模の都市としては、もう少し盛んであっても良いのではと思われる活動もあります。例えばバレエやコンテンポラリーダンス、ジャズダンス系の活動は、もう少し目立ってもよい気がします。大規模ホールを使っのバレエ団の全幕公演が宮城県内では年に一回程度しかないのは淋しい気がします。

在仙台コンテンポラリーの方面での活動を地道に進めている「からだメディア研究室」の関わっている公演で、子供を公演に無料で招待するためのファウンデーションの募集がありました。身体性を使って情報処理を考えようとしているホワイトボードとでは、からだメディアの関わりを調べる活動は方向性に共通点があります。企画に賛同し、寄付を決定しました。

以上

2015年11月1日